

山口市芸術家育成支援事業

第7回やまぐち新進アーティスト大賞

第7回やまぐち新進アーティスト大賞受賞者

木工作家 たけべ とくま 竹部 徳真

応募アーティスト数：14名

最終選考ノミネート者：6名

かしわ よしはる
柏 良治 (39)

たぐち じゅん
田口 潤 (45)

TAKESHI (51)

はらだ かずあき
原田 和明 (40)

木工作家 たけべ とくま 竹部 徳真 (27)

やまぐち いさお
山口 功 (32)

(50音順・敬称略、年齢基準日：審査日)

(総評)

大賞審査も7回を迎えた。これまでも、若き受賞者の新作発表会等で新作に接する都度、選考のときの緊張感とは異質の感動を覚えたものである。

今年度の審査も、応募者14名の作品をじっくりと拝見した後、投票により、上位6名をノミネートした。大賞については、原田和明氏と竹部徳真氏にしばらくこまれ、協議が重ねられ、最終的には挙手により竹部氏が選出された。

山口の素材を生かした作品をもって、内外での活躍が今後期待されるとの評価であった。

(第7回やまぐち新進アーティスト大賞審査委員会審査委員長 足立明男)

(やまぐち新進アーティスト大賞選評)

古材の一木を削ったランプシェード。これらごく薄手にこしらえた技術の巧みさに私たちはまず感心し、また透過光に浮かび上がる木目の陰翳にしばし幻想的な気分にも浸ることもできる。しかしこの仕事の妙味は、朽ちかけた木質も露わな枯淡な風趣と簡潔なモダンな外観という、落差ある造形感覚の同居にある。言い換えると野太い民芸的美意識と洗練をめざすインダストリアルデザイン理念の摩擦である。この二つはいずれも近代に形成された造形思考だが互いに遠ざかっていた。その総合をめざした意欲的な試みだろう。情緒に流されず、古材の美質を再構成していく造形性の展開を大いに期待する。

(第7回やまぐち新進アーティスト大賞審査委員会審査委員 石崎泰之)

・・・第7回やまぐち新進アーティスト大賞審査委員会審査委員・・・

足立 明男 (山口情報芸術センター館長)

井生 文隆 (山口県立大学教授)

石崎 泰之 (山口県立萩美術館・浦上記念館学芸専門監)

兼原 啓二 (山口短期大学教授)

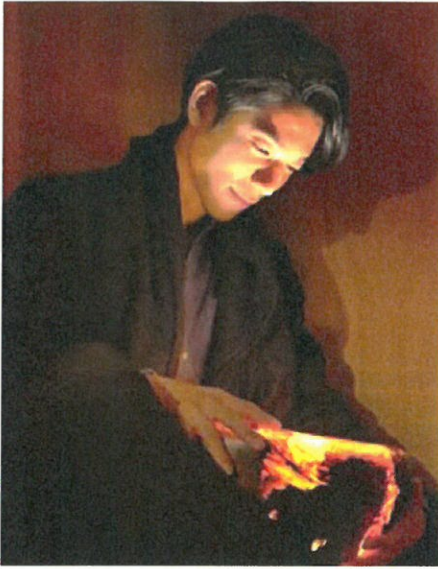
斎藤 郁夫 (山口県立美術館副館長)

(50音順・敬称略)

「第7回やまぐち新進アーティスト大賞」

受賞者 (アーティスト名) :

木工作家 ^{たけべ} 竹部 ^{とくま} 徳真



PROFILE

1987年兵庫県姫路市生まれ
2010年山口県立大学環境デザイン学科卒業
2011年第6回全国『木のクラフトコンペ』入選(神奈川)
2012年山口県立大学大学院修了

宮野の工房を活動の拠点とし、
Japanin vari 日本の“いろ”展(Finland Helsinki)(2010)、
循環型国産自然素材プロジェクト展(東京)(2012)、
現在は、東京や大阪等の百貨店における展覧会に参加する
など、国内外で活動している。

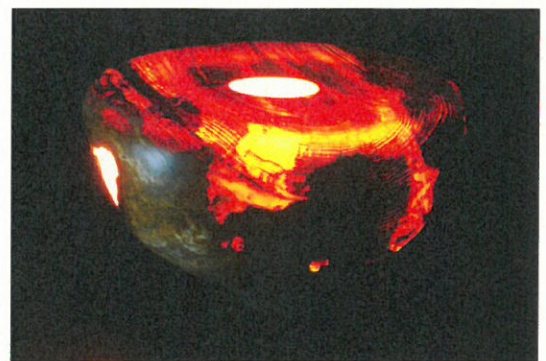
受賞コメント

この度は、新進アーティスト大賞を頂きまして、誠にありがとうございます。山口で活動する作家として大変光栄に存じます。素材のもつ良さを引き立て、わび、さび、それに”華美”を加えた作品を生み出していきたいと考えています。今後は、“世界に通用する made in JAPAN”を目指し、世界に向けた作品の発表を予定しています。今回の賞を受けましたことを胸に、山口における芸術の発展に少しでも貢献していきたいと思っておりますので、どうぞ応援よろしくお願いたします。

(やまぐち新進アーティスト大賞審査対象作品)



^{こぼれび} ^{みかく}
「零れ日 - 脈 うつカタチ - 」



^{こぼれび} ^{しんびょう}
「零れ日 - 心描 - 」



^{ながだいつせんすいつきざん}
「長台一線吸付き棧」

山口市芸術家育成支援事業

第8回やまぐち新進アーティスト大賞

第8回やまぐち新進アーティスト大賞受賞者

やまぐち いさお
山口 功

応募アーティスト数 : 9名

最終選考ノミネート者 : 5名

たかはし もとすけ
高橋 基介 (29)

テラダ サチコ (30)

はらだ かずあき
原田 和明 (41)

む か う
夢果有 (78)

やまぐち いさお
山口 功 (33)

(50音順・敬称略、年齢基準日：審査日)

(総 評)

8回目を迎えたやまぐち新進アーティスト大賞の選考は、応募作品の閲覧、投票による一次審査の結果、上記5名の作家に絞り込まれた。続いて、委員によるフリーな感想意見を交換した後、大賞候補者として満票を獲得していた原田和明氏と山口功氏について、挙手により、委員全員一致で、山口氏が大賞として選出された。山口氏は、最近年のメディア社会にあって、人間関係が多様化するなか、自分を守り、他者との部分的なつながりで生きている“現代人”としての自分像を、アート作品に昇華させ、山口市内外で、展示活動、文化多元主義に立った学習教育の“場”を設ける等、近未来を展望した活動を展開している作家である。

(第8回やまぐち新進アーティスト大賞審査委員会審査委員長 足立明男)

(やまぐち新進アーティスト大賞選評)

現代的な洗練された感覚で造形されたユニークで存在感のある審美性が作品として具体化されている。更には、将来において魅力的な発展をイメージさせる強い躍動感を有している。空間をまきこむアイデンティティには可能性を感じ、新しい作品も見たい欲求にかられる。これからは、山口を創作活動の基盤として定着させて取組まれ、地域からインスパイアされた感性を練磨した作品を通して、世界へ向けて発信されることを期待したい。

(第8回やまぐち新進アーティスト大賞審査委員会審査委員 井生 文隆)

・・・第8回やまぐち新進アーティスト大賞審査委員会審査委員・・・

足立 明男 (山口情報芸術センター館長)

井生 文隆 (山口県立大学教授)

石崎 泰之 (山口県立萩美術館・浦上記念館学芸専門監)

兼原 啓二 (山口短期大学教授)

斎藤 郁夫 (山口県立美術館副館長)

大和 保男 (陶芸家)

(50音順・敬称略)

「第8回やまぐち新進アーティスト大賞」

受賞者（アーティスト名）：^{やまぐち}山口 ^{いさお}功
肩書き：美術作家

PROFILE



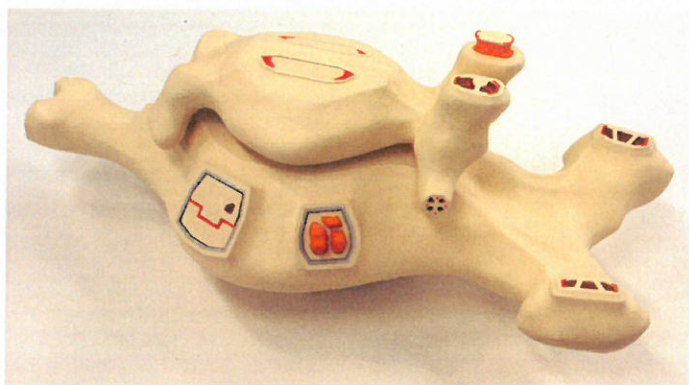
1982年 東京都生まれ
2006年 東京芸術大学 油画専攻 卒業
2008年 東京芸術大学 大学院 修士課程 修了
2009年 グリフィス大学（オーストラリア）交換留学
2012年 東京芸術大学 大学院 博士課程 修了
【博士号（美術）】取得
2014年 山口市を拠点に制作活動を開始

現在、「殻で自らを守りながら、それでも外部と繋がること」をコンセプトに、美術作家としての活動に取り組んでいる。また、アートギャラリーでのイベント企画や評論活動に携わる傍ら、短期大学での美術講師、NPO法人での英語講師も務めている。

受賞コメント

この度は、やまぐち新進アーティスト大賞をいただきまして、たいへん光栄に感じております。ありがとうございます。今後も妥協することなく、自身の芸術表現を淡々と追求し、県内外を問わず、積極的に作品発表を行っていきたいと考えております。今回の受賞を受けて、芸術表現に関する講演会やワークショップなど、地域の美術力向上に貢献できる活動にも、これまで以上に力を入れていきたいと思っております。今後とも応援のほど、よろしくお願いいたします。

（やまぐち新進アーティスト大賞審査対象作品）



から
「殻」



せつぞくそうち
「接続装置 (2016.1)」



ふた じゅうきかん
「二つの受容器官」